

## 指標から見る経営状況

水道事業の経営の健全性や効率性を見る指標に「経常収支比率」と「料金回収率」があります。

「経常収支比率」は、水道料金や一般会計からの繰入金等の収益で、維持管理費や支払利息などの費用をどの程度賄えているかを表す指標です。100%を超え、数値が大きいほど利益(黒字)があることになります。

「料金回収率」は、水道水を作り届けるまでの費用が、水道料金で賄えているかを表す指標で、料金水準などを評価することができます。100%に満たないときは、料金収入で回収できていないことになります。

本市水道事業の令和4年度決算では、経常収支比率が95.6%、料金回収率は89.0%で、100%を大きく下回っています。これは、全国平均や同規模団体の平均と比べても大変低い状況です。

### 【水道料金の改定にご理解・ご協力を】

市は、これまで給水区域の見直しによる施設の統廃合や施設のスケールダウン、電気使用量の削減などにより費用削減を図ってきました



が、経営状況の改善には料金の改定が必要です。

将来に向けて安全安心な水の安定供給を続けるため、皆様のご理解・ご協力をお願いします。

## 一般家庭の新旧料金の比較

主に一般家庭で使用されている口径13mmと20mmの新旧料金比較表を掲載します。

現在の使用量を当てはめて、改定後の料金を確認してください。

水道料金(上水道・一般用)新旧比較表(2カ月分・消費税込:円)

使用量(m <sup>3</sup> )	13mm口径			20mm口径			
	現行	改定後	差額	使用量(m <sup>3</sup> )	現行	改定後	差額
0~16	2,530	2,530	0	0~16	2,530	2,640	110
17		2,662	132	17		2,772	242
18		2,794	264	18		2,904	374
19		2,926	396	19		3,036	506
20		3,058	528	20		3,168	638
25	3,135	3,718	583	25	3,135	3,828	693
30	3,740	4,378	638	30	3,740	4,488	748
35	4,345	5,038	693	35	4,345	5,148	803
40	4,950	5,698	748	40	4,950	5,808	858
45	5,720	6,605	885	45	5,720	6,715	995
50	6,490	7,513	1,023	50	6,490	7,623	1,133



## 〈第2回〉

# 『変わる』水道料金

### 令和4年度 損益計算書(概要) (令和4年4月1日~令和5年3月31日)

	(千円)
a 営業収益(約98%が水道料金)	1,493,740
b 営業費用	1,639,136
A 営業損益(a-b)	▲145,396
c 営業外収益	143,081
d 営業外費用	73,132
B 営業外損益(c-d)	69,949
<b>C 経常損益(A+B)</b>	<b>▲75,448</b>
e 特別利益	4,800
f 特別損失	6,492
<b>D 特別損益(e-f)</b>	<b>▲1,692</b>
<b>■純損益(C+D)</b>	<b>▲77,139(純損失)</b>

### 令和4年度 キャッシュフロー計算書(概要) (令和4年4月1日~令和5年3月31日)

	(千円)
1 業務活動によるキャッシュ・フロー	718,885
2 投資活動によるキャッシュ・フロー	▲731,865
3 財務活動によるキャッシュ・フロー	▲139,178
<b>■資金増減額</b>	<b>▲152,158</b>
資金期首残高	919,100
資金期末残高	766,942

市の水道事業は、令和元年度から赤字決算が続いています。令和4年度の水道事業会計の決算も、約7700万円の純損失を計上し、

赤字決算となりました。料金収入は、コロナ禍から社会生活が戻りつつあった状況から、若干の改善が見られましたが、施設の老

## 令和4年度決算の状況

令和6年4月に水道料金が改定され、3月以前から水道を使用している人は、6月検針分から新料金が適用されます。  
特集の第2回は、令和4年度決算状況から見える料金改定の必要性と、新旧料金の比較についてお知らせします。  
詳しくは、[■総務経営課\(☎2504\)](mailto:2504@shizuoka-city.jp)へ。

朽化による修繕費や、物価高騰による動力費の増加などにより、大幅な赤字決算となりました。  
また、施設などの整備にかかる収支を含めた事業全体の資金は、約1億5000万円減少しました。

